

特
13
2259
17

辻
清



繪本烈戰功記後篇卷之五

目錄

信玄拔駿豆之諸城事

北条氏勝深沢之城退去之圖

神原之城陷落并北条新三郎打死之事

北条新三郎血戰之圖

信玄攻駿府并岡部次良右衛門武勇之事

花沢之城合戦之事

花沢落城并繩無理之事

繪本烈戰功記後篇卷之五

之に依りて



繪本烈戦功記後編卷之五

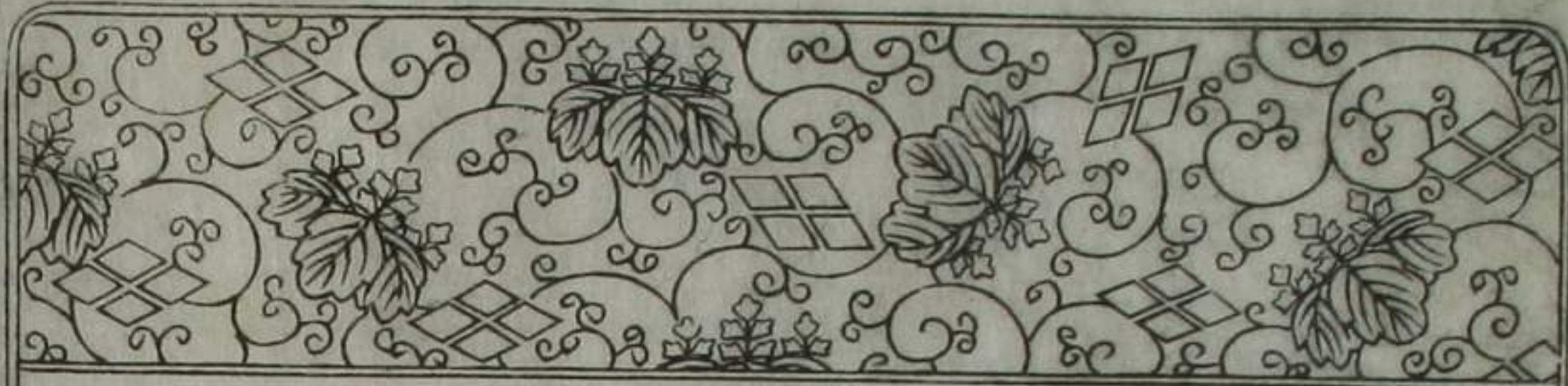
信玄拔駿豆之諸城事

武田晴信たけだ はるのぶは乃依のの玄げん及高たかより飯陣いひぢんにて法軍ほつぐんと尉房ゑうぼうヲ頼國たのぐに中に
 仁政にせいと施ほされ乃依のの玄げん其後そのち四日よっぴの暮ゆふと召よきて予まけ交まるまと
 出でしてより四十四日しじゅうよっぴの乃依のの玄げん小糸こいとが領地りやうちと縦横じゆうげう諸壘しよらいを隔へ
 つれ存ぞんふと掠畧りやくりやく而して氏安うぢやす父子ふしが膽いそと挫くちされ乃依のの玄げん向後むこうを拵しな
 とめ事こと終つひふまこと覚しるゆ依のの玄げん之のふま後豆のちまめの疆界さうがい出強でつやう而して故ゆゑの
 城代じやうだい共ともと追拵おしなひ後のち乃依のの玄げん一糸ひといと又平均へいぐん兩りやうんと之の世よとあて處ところ
 又政解せいげを令しせらるる乃依のの玄げん同十一月どうじゅういちがつ又日またひ甲信上かうしんじやう三ヶ國さんかこくの
 軍勢ぐんせいと引率ひんそつ而して甲府かうふを雷らい發はつある予ま勢せい半はんとして大膽たいたん
 技わざ搦な而して連つれ九万里くわんりやうり又乃依のの玄げん如ごとく又小糸家こいとけ又於おひ一門いっもんを強つよくと

烈戦功記後編卷之五

二

繪



武田之勇士武勇之圖

武田之勇士武勇之圖

佐々三郎と赤猪。赤猪は赤猪の城へかき
 攻べたの雨。及畠より早くぬきあつた。高家の援兵は
 怖ろしくあつた。然らば高家中。再出陣する事不_レ由
 と。諸城へ加へて軍兵共々。小田原へ引_レ入る雨。佐
 三郎の如く出陣せしむ。後軍大に警備し。未_レ幾の
 ざらふ。兵隊とて逃_レぎ。或はさるべと来て陣と乞_レ者多。忽小条
 方の城一列は落去と。中おも_レ赤猪の城へ小条方の一
 勇士とてつ_レく。左衛門をま氏捕籠_レる。夜はまた
 城と退_レる。然_レは如何_レは狼狽_レあつ_レけん。氏勝_レ代
 家宝。貴八幡の旗と取_レ落_レてお_レり。作_レは左衛門をま
 氏捕と_レる。遠州言_レ天祥の故の城也。福傳と総介_レるに

有る可めさか

は

浪

元

て。左衛門をま氏総成の身也。而_レ又と総介。武田信虎は
 故_レ對。そ_レ以_レ甲_レ及_レ兵_レを切_レり。武田の家老_レ赤猪
 者_レ法_レ智略_レ也。是_レと亡_レし。そ_レを_レ総成_レ又_レ離_レる
 ね_レ又_レ流_レ宰_レす。于_レ年_レ二十_レ七_レ日_レ也。小条氏安_レ也。其_レの
 也。は左衛門をまが武常_レと賞_レ受_レり。別_レを_レお_レめ耳
 繩_レの_レ城_レと_レも。小条の氏_レと_レ送_レり。且_レ家_レを_レ傳_レる_レ總_レの_レ一_レ家_レ
 冠_レら_レせ_レる_レ。總成_レ救_レ友_レの_レ合_レ戦_レは_レ又_レ晩_レ也_レと_レ意_レて
 款_レと_レ追_レ崩_レす_レべ_レし_レと_レは_レ。殊_レと_レ去_レん_レ天文_レ七_レ年_レ。武田川
 越_レ合_レ戦_レの_レ時_レに_レ總_レ成_レ川_レ越_レの_レ城_レに_レ移_レ居_レて_レ後_レ領_レ上_レ校
 憲_レ政_レが_レ八_レ万_レ餘_レ騎_レの_レ大_レ軍_レと_レ引_レけ_レる_レ。城_レを_レ落_レす_レれ
 ざ_レり_レ也。其_レ軍_レ又_レ氏_レ安_レ十_レ分_レの_レ勝_レ利_レと_レ得_レられ_レる。總成

みきせ

二

廿

を

織田

故方又ハ旗と云る毎ニ怖と云。其ハ旗が出たりと云
 多ク。徳成が舎弟兵千代丸ハ。氏安の小姓として在りて其
 千川越の夜軍の時も兵千代丸又批る武功を顯
 たり。兄徳成。文領と共旗と云。氏安よりハ。氏
 一字として。今ハ小条左衛門次氏勝と母ハ是也。又徳成ハ
 上徳成と改。兄弟共ニ。其ハ幡扇と唱作せしめて。武名を
 實ハ兵又集るせしむ程の勇士也。然ハ今ハ氏勝が落し
 たる旗と。武田方の兵士にあげ。信玄は就て后。若木の
 面々云々。僕も我若。先月三増の庄勝利又依。故方
 益怖と云。是も鬼神の如く。信玄ハ小条氏勝と云。其ハ旗の

旗ハ。朽き糸の地ハ八幡の二字と云ふ。其ハ旗の
 故方又ハ旗と云る毎ニ怖と云。其ハ旗が出たりと云
 多ク。徳成が舎弟兵千代丸ハ。氏安の小姓として在りて其
 千川越の夜軍の時も兵千代丸又批る武功を顯
 たり。兄徳成。文領と共旗と云。氏安よりハ。氏
 一字として。今ハ小条左衛門次氏勝と母ハ是也。又徳成ハ
 上徳成と改。兄弟共ニ。其ハ幡扇と唱作せしめて。武名を
 實ハ兵又集るせしむ程の勇士也。然ハ今ハ氏勝が落し
 たる旗と。武田方の兵士にあげ。信玄は就て后。若木の
 面々云々。僕も我若。先月三増の庄勝利又依。故方
 益怖と云。是も鬼神の如く。信玄ハ小条氏勝と云。其ハ旗の

旗と云。其ハ旗の
 故方又ハ旗と云る毎ニ怖と云。其ハ旗が出たりと云
 多ク。徳成が舎弟兵千代丸ハ。氏安の小姓として在りて其
 千川越の夜軍の時も兵千代丸又批る武功を顯
 たり。兄徳成。文領と共旗と云。氏安よりハ。氏
 一字として。今ハ小条左衛門次氏勝と母ハ是也。又徳成ハ
 上徳成と改。兄弟共ニ。其ハ幡扇と唱作せしめて。武名を
 實ハ兵又集るせしむ程の勇士也。然ハ今ハ氏勝が落し
 たる旗と。武田方の兵士にあげ。信玄は就て后。若木の
 面々云々。僕も我若。先月三増の庄勝利又依。故方
 益怖と云。是も鬼神の如く。信玄ハ小条氏勝と云。其ハ旗の

旗と云。其ハ旗の
 故方又ハ旗と云る毎ニ怖と云。其ハ旗が出たりと云
 多ク。徳成が舎弟兵千代丸ハ。氏安の小姓として在りて其
 千川越の夜軍の時も兵千代丸又批る武功を顯
 たり。兄徳成。文領と共旗と云。氏安よりハ。氏
 一字として。今ハ小条左衛門次氏勝と母ハ是也。又徳成ハ
 上徳成と改。兄弟共ニ。其ハ幡扇と唱作せしめて。武名を
 實ハ兵又集るせしむ程の勇士也。然ハ今ハ氏勝が落し
 たる旗と。武田方の兵士にあげ。信玄は就て后。若木の
 面々云々。僕も我若。先月三増の庄勝利又依。故方
 益怖と云。是も鬼神の如く。信玄ハ小条氏勝と云。其ハ旗の



北条氏勝

五



北条氏勝
 深沢の城
 の退去の図

北条氏勝

五

斎が未子。源二良と良と子方。氏捕が武官ふ。あつて
べつとあつて彼。黄八樓の旗と。源二良は頼
家の奇室と。孫は信。後強は信尹と。信
弱井右系亮と。持副てぞ守せられ。そ外小条家の
士の籠る。足柄。新庄。多巢。長久保。山中。弘吉。若徳寺
井田。左布。以上九ヶ所の城。皆落城し及び。小条左膳之助
芳賀伯耆守。松田新三郎以下。赤小田系又逃ゆる。れ
佐玄慈て。新庄。足柄。山中の二城ハ焼捨られ。また
中条新三郎が籠る。井田の城と。また。同日
月五日。未の下刻。及で。吉原衣へ推ゆる。小。先鋒の

勢ハ。富士川と。希と。高て。服と。又。依る。り。け。是。大。和。佐。玄。
吹上。六。本。松。又。陣。管。を。據。ら。る。室。より。井。田。の。城。中。へ。使
者。と。立。ら。れ。て。既。又。源。二。良。弘。吉。守。新。庄。多。巢。若。徳。寺。下
九。ヶ。所。の。城。は。皆。落。城。し。及。び。及。及。小。条。左。膳。之。助。の
背。と。云。送。ら。れ。ら。る。小。条。新。三。郎。信。尹。大。副。の。吉。土
の。れ。は。い。と。と。青。せ。は。と。曰。某。事。の。実。事。又。能。勇。名。と。奮。世。と
も。知。ま。る。小。条。左。膳。入。刀。幻。庵。が。将。を。以。て。自。余。の。者。共
と。此。二。邊。ひ。り。今。又。逃。ゆ。る。又。吉。原。衣。と。織。其。上。と。あ。く
小。条。左。膳。と。進。て。淮。面。を。合。ら。ん。や。且。我。の。あ。り。死。と。恨。ん。ず。る
事。ハ。武。士。の。好。ゆ。り。と。以。て。高。城。市。を。守。り。能。く。務。め。る。者。と
して。攻。ら。る。と。信。重。一。命。と。掘。防。戦。亦。死。仕。而。后。お。こ。と

趣

中へなれ。未息のあしん限の相ひもきくはいと。子
 強く返言さうりけまひ。伝言是をききて実用後しを
 在事さうらふ。それさうべ。是非さう一命と申すべれと
 あり。又大は晒されつる体にて。使者を以て致さへ觸させ
 らまける換へ。今大業成んと欲の何はせめて。け償さる
 小城さるるなりんとやあるれ。尚城の攻撃の誓い先
 後府の城さるるなり。我は去ん十月二場の合戦は。小条方
 お負てより。尚家と怖るより大抵さるるなり。唯尚城の
 正と引ねよとも。はれまへる程の故あり。唯尚城の
 主將新三良而已。大副の者なれば。おてゆんも固ま
 されどわさるる兵と変へる。款類は咬留るとも。信乃

厭

別故又尚て人救と換ごらん。そ是のさるるれば。いんく
 會釈て。さうく我さうらうれと命さるるれば。隊お各ありそ
 相ひなれとまへ組りへて觸さるる。我は中条新三良が家の子
 石巻孫三良と名譽の思樹のよる有り。伝言の二男
 海野隆室の政中お終入と居さるる。け軍令と探さ
 より。是は城中へとせゆりて如何と告さるるれば。新三良
 今又さるる。宗徒の常士お集て。軍兵を成けつ。明日伝言
 何はるる候筋と通しん。むねは。何處で討たんとさるるあり
 又いさるる。追行せんとさるるあり。けり。新三良
 が曰我相ひへん。伝言けしをさるる。其味方。款對とさる
 をもさるる。そは。何れとさるる。捷徑と馳て。款

列傳式言二不傳者三抄

斯

相

分

の先子と旗本の事とわかれぬ。佐吉用を重し而大宮又
 引致。甲及び後奔は遠く。又先子の勢ハ薩摩山の一掃
 適られ。若後は逼迫して吾も。其時味方の勢を合
 短兵多しと追ふゆゑ。佐吉も討捕んこと必なること
 なる如く云われぬ。危殆に及ぶ。一變をく。諸軍も令して准
 とは。明らと遠くして往くけり。押佐吉尚城と云ふを
 後府へ急ぐに及ぶ。是皆詐の云ふ。態と款
 の奸細とせしむ。城におびに及ぶ。ふ念又推きて一討
 城を築きしんとの計略也。故は味方よりも間者外
 とん。いせり。案の如く款方。け政觸と實と云ひ
 中条新之良徳重。遣兵と云ふ。おて出んと軍後交

作

取

詳

計

小山田守
昌辰

緩々

355
か

而。准儀と云ふ。わかれぬ。佐吉仕海し。兵者
 不厭詐求勝。明日は城と拔べり。使者と云ひ
 諸隊に密斗と授けられ。同日の夜。深更に及ぶ。薩摩
 歩立。おま六日の未明。由井。念はと押出せり。先度
 後。お通ると。城にお条新三郎此と見切。物野新八
 郎我忠と。作は遣兵勝て三百餘騎。城外の捷徑と横り
 小山田が切と立切んと。魚鱗と云ふ。繼と云ふ。殺入と云ふ。小山
 田昌辰。おとらと候と云ふ。先は進で。日。騎兵共推是也。高田
 武田の祥先と向つんと。夜。の火。近く。小細ると。不
 法は。寇と後悔する。大。勢。い。ま。し。め。は。し。り。款。勢。也

詳

列傳以記二篇卷之五

斯

猛向ふ。予の猛率一同は進み。而もわく切すれば。山条方
も怒り。傍ら山田が度々我。今も追崩れておの勢の亦
並とてけし。旁と奮て我ふほど。武田方も追立りて
城兵も破りて。勝勢未分なり。火花とて。相合り
信平は武田方。遠後改は高。大文字の旗翩翩と飄て。伴
宗四長勝れ。後改より後と乃傷山推也。自ら先は進み
陣門を閉ぢ。唯一息は余ひんと。甲乙立の強足は。決然
合せ。弛られれば。是は鐘く。信平一統。砂烟と巻て。福
りけり。は道場山とつら。若徳と曲論と号し。高城は。切
たるおるれば。山条新三郎是と顧て大は警。諸は。又た。引
ぞ引させ者去。疾退ると。下知とは。高の。切と。引と。引と。

山田備中守
昌辰

りせきども。小山田昌辰。戦うて。遠後梅は。又。引と。引と。
と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。
るぞ。令措く。敗走せよと。必し。引と。引と。引と。引と。引と。引と。
の城兵。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。引と。
と。山条新三郎。良念。激而。血は。降る。大は。力。打振。敵と。た。た
よ。切。ひ。け。後。横。は。蒐。之。猛。虎。の。群。羊。と。わ。つ。か。如。小。劔。也。
武田勢。益。競。ひ。四。方。より。九。圍。既。は。危。く。お。る。と。野。聖
新八良氏。忠。糧。帯。と。奮。一。足。も。引。ば。お。死。に。け。隙。新
三良。稍。の。圍。と。生。城。中。より。ぞ。引。ら。り。け。り。
4 新三之城。陥。落。兵。山条新三郎。お。死。之。事。
新三。陣。中。に。於。り。大。お。新。三。良。突。出。て。武田。の。先。より。引。ら。り。

斬

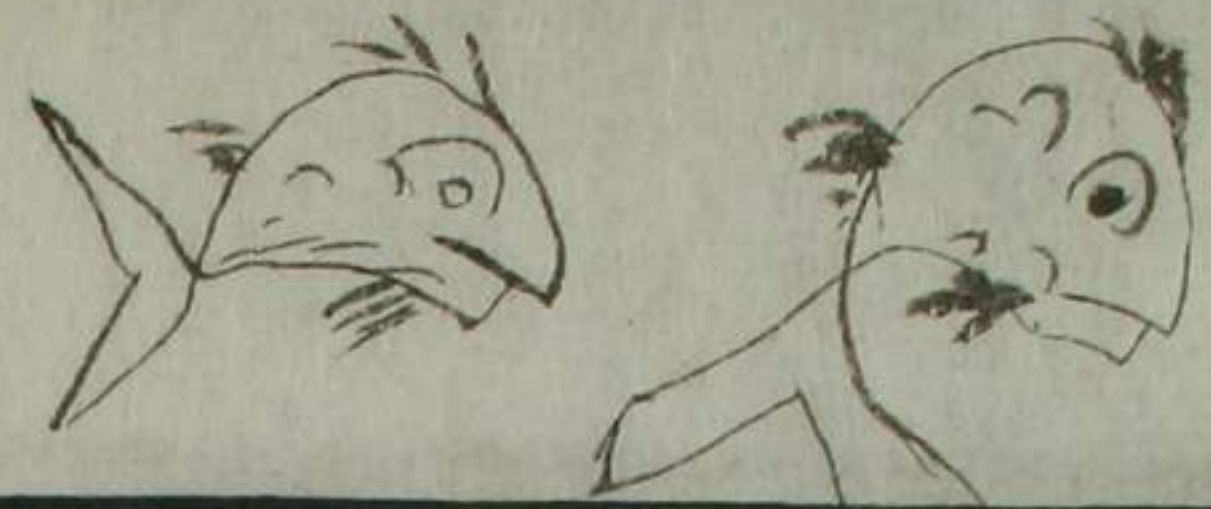
我ひ研すんと思ふもよむ武田の後攻より
 一子の軍勢乃場山へ来るも、獨我と獲りしる
 敵勢去くと推考する。爰又信濃河原二良佐尹の
 と心又怒。四良持頼又續て馳りりり先と保は小旗
 伝云より場りり所。黄い旗の旗とひるびて陣隙を
 く考や否。先よとぞ。逆兵本とひるびりり。信濃河
 原二良佐尹。若城さの一枚糸曲とひるびりり。推入
 らせ緊迫なれ。先よとぞ。持頼が勇士。一同は推入
 る。城兵も夥推隔する。西と破られと死と寤てど奮然
 正。信濃河原。城乃新三郎信重。未と成り馳返り。大なるり
 入城。門と鎖て防戦しる。

もあく追来て。疾風のどくどく取り止む。遂は城門を
 破る。中も信云旗本の勇士。落合市之丞と名乗
 る。先は殺入とぞ。城中より加藤助四良といふ者。鬼出
 て。是と遠。落合が持頼と奪取して引退る。市之丞は
 信と云ふも。若城城中と緊迫助四良又追討。只一刀
 に撃伏持頼と死す。持ももて我ひし。六ヶ所返り城と
 交。き上たの持と五とも切落され。未と成り引退る
 同がは。かりらる奉勅也。是とぞ。初麻竹右の音聞
 と進の友人。一同は先入高と棄切て退れ。武田の猛率
 我あくと鬼入。息ともつがせ。攻立る。高下は。若城守
 回輪。早破きて勝頼。信濃河原の軍勢。一舟又退入る。城兵

四

小高橋

斬



我ひ研すんと思ふもよむ武田の後攻より
 一子の軍勢乃場山へ来るも、獨我と獲りしる
 敵勢去くと推考する。爰又信濃河原二良佐尹の
 と心又怒。四良持頼又續て馳りりり先と保は小旗
 伝云より場りり所。黄い旗の旗とひるびて陣隙を
 く考や否。先よとぞ。逆兵本とひるびりり。信濃河
 原二良佐尹。若城さの一枚糸曲とひるびりり。推入
 らせ緊迫なれ。先よとぞ。持頼が勇士。一同は推入
 る。城兵も夥推隔する。西と破られと死と寤てど奮然
 正。信濃河原。城乃新三郎信重。未と成り馳返り。大なるり
 入城。門と鎖て防戦しる。

追

真



討

石見軍記 石見軍記 三

今の防々にて本丸と引込。矢石と飛す事。雨の如し
されば。あまた右をくさす。城と睨で殺す。あふ。後河
の先方。是れおま誘う良黨。小垣市をつと名宗。荒不抜て
あふ入られぬ。はいつては江左衛門。若盤茶右衛門。入江
みちの。大石四方か。是等の皆。是れかあ人として。若ふ安
えくる。常子うねぬ。我方らららと系入らる。城兵あも
石巻孫三良。後田孝。二兄右了。加後助九良。同平二
良。同横。早登玄妻。石井右去。上野。又若等。切先と拵
お働。同村。又。外の常士各痛。と。蒙りて。まふ
落城と。いけね。城お少茶。新三良。徳重。今。是。と。さ。り。と。と
舎。箱根お長順。清水上野。新田。又八郎。引所。茶。さ。か

上系甚ち即。同甚三良。大草右系。同右迫。以下宗。伎の
常士。二十八騎と。茶。後。方。右。お。ね。後。ま。一。文。字。お。切。て。出。さ。震
の。競。う。う。款。勢。お。割。て。入。電。光。の。敵。と。ら。ん。ぐ。切。て。お。ね。ん
是。又。向。入。り。の。身。を。令。入。ら。る。う。能。ん。ん。特。可。一。方。の。血。路。を
ひ。き。退。げ。の。う。る。ぐ。く。見。え。る。う。れ。ど。も。後。兵。次。お。お
死。と。大。お。新。三。郎。も。法。も。重。子。七。ヶ。雨。ま。で。負。け。る。う。れ。ん
何。回。ま。で。罪。を。犯。る。べ。ん。事。と。皇。後。十。餘。騎。各。に。送。り。て。死
ら。ら。る。予。餘。の。兵。卒。或。は。逃。ぎ。或。は。敗。來。而。武。田。勢。お。ね。又
入。代。り。晴。岡。と。ど。揚。り。ら。る。武。田。方。お。お。若。者。山。條。新。三。良
と。始。て。七。百。一。十。一。級。と。ぞ。安。え。い。探。少。茶。の。門。葉。多。く。い。れ。も
け。新。三。郎。怨。ま。い。常。故。我。列。の。士。と。ら。ら。る。氏。安。武。志。淺

刺



川内カバシ



北条新三郎
血戦の
図

新三郎綱直

烈陣功記 石原巻之五

うぐりて。依こそけ。林系の城あり。あられ。実子。その
 隨遠り。余の城と。明して。離散。されども。徳重。宿
 高城と守り。名は。武田の猛兵を引け。屍と軍門
 曝し。武名と永く。後代に送せり。威せぬ者。こ
 変り。され。最後の憤。又依て。新三郎。が。怒。冥
 け。山中に残り。推ま。新三郎。が。怒。冥
 岡。絶。地。と。又。夜。山。の。宿。と。宿。か。て。そ。る。心
 者。と。玄。宗。と。か。を。見。る。も。何。民。是。と。云。他。で。信。と。怖。る。心
 者。是。勇。士。の。本。云。又。わ。れ。た。ま。武。士。と。る。者。死。と。若。及
 又。守。り。令。と。谷。路。と。拖。り。最。以。愉。快。と。と。る。あ。り。の。致
 徳。重。及。どの。者。争。未。練。あ。も。亡。霊。と。残。る。ん。や。此。其。雙。言。款

の家。又。恨。と。而。或。い。立。死。に。死。る。五。魂。の。頭。又。は。墳。墓。小。像。て
 土。民。の。被。母。と。崇。る。る。が。ん。証。べ。た。況。又。わ。れ。ど。是。は。只。山
 中。又。鬼。形。と。顯。也。嗚。呼。新。三。郎。徳。重。最。期。の。際。又。及。而
 凄。愴。る。る。次。女。と。ん。せ。て。何。の。為。又。推。救。を。例。山。住。の。僧。と
 威。え。ん。や。子。上。隔。生。則。忘。と。云。ん。運。山。中。此。怪。異。は。徳。重。が
 怨。冥。少。い。あ。り。也。幽。路。魔。魅。の。所。為。る。る。ん。

信。云。攻。駿。府。兵。固。於。次。郎。在。藩。門。武。勇。之。事。旗

於。て。武。田。信。玄。の。林。系。の。城。と。攻。落。し。其。后。隊。伍。と。救。を。と。り
 と。も。あ。り。由。井。會。法。と。お。り。薩。埴。山。の。山。を。さ。る。る。あ。り。山
 此。又。款。の。と。こ。ん。て。鐘。旗。樹。る。ふ。飛。揚。し。人。の。勢。山。度。又
 此。て。味。方。と。邀。ん。と。け。り。け。り。け。り。急。を。る

場兵は守候房を召て。藩極山はひと敵と。見様じ
 仰られ。候房畏て。河津出。是とをいんで。馳ぬ。敵ハ
 俣豆ね挿の集り勢の一揆系と見て。備よみ六百と見
 候。然共。味方長途と申。人共は疲勞付て。候
 着。一揆系のみ。一俣あても切負いり。永き。河津
 みて。先計畧と云。おひねこれいり。子然べくいと云
 上の。是は。足輕隊が城。俣庵兵出て。曰。馬場氏の賢急最
 以良策と存り。候。長柳。切い。雨のり。一。尚。候。見
 中。ん。河津。然べく。執。給。る。と。然。候。候。云。候。し
 候。候。鬼も。南も。仕。候。係。俣。房。後。と。後。と。有。候。れ。候。ば
 俣。庵。懸。て。足。輕。と。推。立。ま。の。幕。又。成。て。馳。上。れ。候。山。院。の。敵

見。と。ん。と。一。齊。又。録。と。致。候。出。坂。の。小。付。て。か。ら。候。俣。房
 入。り。候。より。候。て。敵。先。と。搦。突。上。突。付。候。と。云。候。れ。候。ば
 掩。懸。候。敵。は。あ。ま。り。難。く。候。と。云。候。れ。候。ば。馬。場。俣。房。子
 勢。と。り。知。候。俣。房。付。て。子。續。け。や。者。共。と。雲。霧。の。溪。谷
 より。起。り。如。ま。の。成。り。成。り。攻。め。れ。候。と。云。候。れ。候。ば。俣。房。又。辭。易。而。主。執。群
 物。黨。の。一。揆。系。の。只。神。系。より。馳。ま。れ。て。馳。上。り。候。と。云。候。れ。候。ば。亦
 隊。後。軍。の。俣。房。と。一。戦。又。亦。散。れ。候。と。云。候。れ。候。ば。立。見。も。り。放。走。と。り
 武。田。勢。益。様。と。云。候。と。大。山。の。崩。が。候。と。云。候。れ。候。ば。具。津。川。ま。を。追
 付。首。と。見。事。二。十。八。級。暫。時。又。新。路。啓。り。候。と。云。候。れ。候。ば。俣。房。安
 堵。あり。候。俣。房。俣。房。功。と。賞。せ。れ。候。と。云。候。れ。候。ば。悠。々。と。山。頭。と。馳。候。俣。房。と
 子。房。系。と。打。候。河。津。又。放。宿。改。め。候。と。云。候。れ。候。ば。五。日。不。至。候。と。云。候。れ。候。ば。定。め

川口カバ

駿府の城を推して。經兵急を攻られぬ。城あり。次郎右衛門大將と来て。久能強正。駿川日向守。河井極。その外今川家のを習。小宮の武士若干と集め。楠義后。がけを始。次郎右衛門。駿河。武田の大軍と。些無怖。然と矢頃又引を。自天余。之。馳。鉄。蛇と。玉。惜。結。出。に。武田。勢も。的。成。外。旅。蒙。死。の。影。小。及。ける。信。是。と。眺。実。忍。妙。小。場。別。の。者。千。率。の。求。易。一。好。得。難。命。と。助。召。き。一。だ。し。と。む。特。國。と。解。隙。海。寺。の。知。高。と。ん。種。又。和。議。と。云。入。られ。る。云。始。と。始。于。余。の。常。士。悉。城。と。突。て。武。田。方。を。復。し。る。信。云。強。

再

次右衛門と召出され。于方。主人今川氏忠が居城の明と。平。持。り。して。ふ。敵。も。け。信。云。が。大。軍。を。引。交。敢。而。座。せ。は。而。防。戦。と。遂。に。今。松。若。の。恥。辱。と。雪。す。事。感。ん。余。有。と。て。そ。武。功。を。賞。せ。り。ま。さ。に。本。加。三。百。と。改。三。千。と。改。せ。り。ん。れ。又。十。騎。の。士。率。と。飲。侍。大。將。お。ど。加。ら。る。そ。外。兵。城。の。常。士。信。又。ま。ま。隊。下。お。ど。令。せ。り。ま。さ。に。か。く。て。そ。率。も。季。又。信。云。け。ま。が。信。云。駿。府。を。越。来。有。早。去。あ。い。同。去。死。は。の。城。を。攻。ら。ん。と。ぞ。云。物。さ。れ。る。又。是。は。信。云。小。宮。元。後。宮。と。智。常。兼。佐。の。者。父。子。就。り。て。そ。外。武。常。の。受。有。り。の。信。云。け。ま。が。け。事。を。信。云。却。而。常。と。為。高。村。武。田。信。信。院。信。云。又。あ。ら。れ。死。て。懐。み。記。され。生。て。子。子。の。登。け。上。や。る。

同書
35
20

べんとて。香防禦の准依とす。美とが返〜とまらうけら
 常士の心操こそゆらば〜これ
 花江城合戦と事
 明皇が永禄十三年正月下旬。武田信玄。花江の城と攻らる
 度しとて。後府又於軍列と定らる。味方おも天晴武略とん
 天中又怖とる。信玄又一あらうせと追五とんと肩腰と飲
 ぞぞ侍りけり。初る武田勢ハ。次身と乱る。信玄又推し
 て。花江の城と稻麻竹葺の如取囲。縁と揚。全朝とて
 ぞ攻とる。味方小系又も兼て切らる。とるれば。子鉄炮
 と透すも。多。防戦事。厳重也。爰又。石動。治。右
 傍門。内次。右。傍門の兄弟。武田家又攻てより。初ての軍度

ちれば。天晴。粉骨と盡さんとて。先より。と居りけるが
 花江。腰曲輪のを。とる。と。邸の。屋根とより。城。中。此
 根。と。つ。ん。積。り。居。る。所。は。信。玄。の。身。信。連。は。た。道。達
 朝。令。と。蒙。り。巡。見。お。通。し。ま。け。る。が。石。動。兄。弟。が。よ。り。居
 屋。根。と。同。上。り。來。て。味。中。の。怖。と。り。ま。け。る。所。を。石
 些。か。と。より。て。は。協。不。殊。の。外。鉄。炮。あ。〜。〜。と。て
 下。り。り。戸。板。と。死。せ。道。達。朝。の。弟。は。立。ら。れ。信。連
 入。り。取。を。振。る。運。令。ハ。天。下。小。信。と。り。の。め。と。争。屋。及
 ん。や。味。方。精。有。掛。運。の。弟。ハ。逃。る。子。鉄。炮。い。ざ。り。也。と。て。戸
 板。と。悉。推。除。ら。る。石。動。兄。弟。顔。不。殊。と。共。用。ひ。ら。れ。ね。ば
 石。動。も。せん。と。て。石。動。兄。弟。の。連。枝。と。一。あ。ま。ん。事。様

花江の城合戦と事

十六

花江の城合戦と事

は波

真

軍使を以て疾く退べし。再三云きおれらるる
 勝れけしといひて。お幣と引揚。退んこととていひて
 城中より究竟の兵士。切先と搦て掩殺し。勢猛に
 受命と。初麻竹の門。後湯越中。以前の鎌倉と搦
 て。追くる敵と突おひし。友人殿と成て。味方と援
 給くと引おらる。

花澤落城
 先程五里の事

花沢の城強而。急に陥落も及びし。諸軍嵩々
 と為の所。三枝勅解内左衛門。佐藤内左衛門。若根内
 近衛内。毎又佐藤の左右に陪後而。早晩も軍中進退
 引の使者と蒙程の武略の者として。い三人若根内
 交と結ぶる。三枝勅解内左衛門。は幾ひの損とけりし
 こと。外友人に向ひ。素推し。かゝる小城を圍む。借の強
 蛇又怖。攻めごと。武田家の名おと成。且我も恥辱
 とおり。去来や三人馳向て城を突入。討つてお死
 若根と報ん。如何と云われ。若根佐藤内云。お及ぶと
 一同三人樂と。生暮る。馳着門。門を突くと。い
 城兵是と。引揚。んで生捕。城門と推兵。菟出
 んと。さる。彼三士。迅風の如。三枝勅解内左衛門
 晴。虎口の一。名を。敵兵二騎と突伏。けりし
 佐藤内。若根内。二。城兵と突立。と
 手と。中。若根内。城方の常士。若根内。

軍使を以て疾く退べし。再三云きおれらるる
 勝れけしといひて。お幣と引揚。退んこととていひて
 城中より究竟の兵士。切先と搦て掩殺し。勢猛に
 受命と。初麻竹の門。後湯越中。以前の鎌倉と搦
 て。追くる敵と突おひし。友人殿と成て。味方と援
 給くと引おらる。

花澤落城
 先程五里の事

花沢の城強而。急に陥落も及びし。諸軍嵩々
 と為の所。三枝勅解内左衛門。佐藤内左衛門。若根内
 近衛内。毎又佐藤の左右に陪後而。早晩も軍中進退
 引の使者と蒙程の武略の者として。い三人若根内
 交と結ぶる。三枝勅解内左衛門。は幾ひの損とけりし
 こと。外友人に向ひ。素推し。かゝる小城を圍む。借の強
 蛇又怖。攻めごと。武田家の名おと成。且我も恥辱
 とおり。去来や三人馳向て城を突入。討つてお死
 若根と報ん。如何と云われ。若根佐藤内云。お及ぶと
 一同三人樂と。生暮る。馳着門。門を突くと。い
 城兵是と。引揚。んで生捕。城門と推兵。菟出
 んと。さる。彼三士。迅風の如。三枝勅解内左衛門
 晴。虎口の一。名を。敵兵二騎と突伏。けりし
 佐藤内。若根内。二。城兵と突立。と
 手と。中。若根内。城方の常士。若根内。

真

124

有馬の隠と合せ突伏し着せられ。是とてより。赤松の綱勢
 備前用付する。赤松狼助。三枝板へうと。勢よくあがりく
 一同は推射て逃入るとする。城兵も追ふに馳加えり。追出
 ての追込は喚呼で擦合らる。城兵小系肥前守。幸次は
 へ宗俊の勢を止し。黒雲の渦巻が如く掩殺して。佐吉
 が獲本めがけ。赤松一文字もあがり来ると。武田の勇士等
 是と遮て。赤石源右衛門。一敷鎧と入て。敵あ人と密跡
 せむ。續て村松左衛門。宮内小系。大木源又。陰下の言
 名。城兵も。伴井孫又。赤原戸を隔。子松又。左衛門
 小系。控右衛門。同原。赤松の勇士。おし。やく。罵作。と。冷
 と。幾。の。り。武田方。又。落合次郎。同。左。平。次。天。澤。一。平。

通

北

356

同宮。控。右。衛。門。白。島。与。七。良。武。田。全。治。等。城。兵。の。隠。と。馳。て
 一。息。又。攻。落。せ。んと。幸。次。の。城。門。め。が。け。激。浪。の。海。へ。入。り。如。く
 を。射。て。見。て。城。方。の。旗。を。落。し。二。名。を。傷。つ。と。是。則。ち。の。精。兵。小
 系。の。兵。又。走。上。り。矢。把。と。解。て。押。つ。め。引。つ。め。射。り
 け。ま。い。赤。松。も。是。と。射。あ。り。ま。さ。れ。進。む。中。より。落。合。次
 郎。倫。と。離。れ。て。馳。り。ま。す。こ。ゝ。左。衛。門。の。後。と。追。つ。め。引。つ。め
 て。敵。の。大。丁。投。を。落。合。次。郎。が。唯。中。と。矢。尻。射。て。射。通
 り。赤。松。の。左。平。次。走。り。ま。す。兄。の。首。と。敵。の。後。と。肩。を。引。つ。め
 退。ん。と。ま。り。と。城。兵。逃。は。じ。と。競。ひ。か。る。赤。松。も。是。と。射。て
 退。り。赤。松。の。左。平。次。の。恥。を。追。つ。め。引。つ。め。赤。松。の。左。平。次。と。押。尻
 とも。射。ひ。ら。る。室。又。赤。松。の。左。平。次。の。恥。を。追。つ。め。引。つ。め。赤。松。の

山ノ内



武田の勇士の武勇の図

十六

三右左衛門と云り。防敵の勇士。まゝも技持せしむ。就中
 今川家の同朋。伊丹佐河孫。曲輪一ツと云持。後防と云
 佐云珠。又賞員あり。伊丹大隅と改名せしむ。後河の船大お
 あぞ伊丹と云らる。又二技劫解由左衛門。伊丹佐河。後
 根内近が。武勇と賞せしむ。且伊丹源次郎。幸次郎の一番
 槍見事あり。有と云。後賞の上。山孫三右左衛門。昌宗が同公小
 ぞ飲られらる。さるほどは。花火の城。疾落去及らる。中て。後
 次は。城代。武田勢の旗とも。引けて。退散せしむ。伊丹
 城。城代。究竟の要害と云。引る場。後伊丹佐河。源次郎
 せとせられ。出者。引て。田中の城と号らる。後伊丹の城と
 後員。先方。命令。普備せさせ。山孫三右左衛門。城代。

伊丹と云く。互に。思ふ。果る。や。さる。尚下。して。鞍。さ。小。勢。ま
 急。下。知。と。侍。く。旗。本。より。煙。と。き。さ。ふ。吹。立。と。せ。急。の
 去。勢。と。さ。り。し。と。さ。り。せ。取。集。の。勢。と。さ。せ。れ。け。し。む。
 城。兵。先。と。解。過。一。同。と。引。入。て。持。持。り。人。數。と。加。入。防。敵。
 と。敵。と。さ。も。小。勢。と。れ。は。ち。り。力。足。り。あ。り。て。さ。り。の。小。勢。も。さ。り
 全。軍。を。引。次。名。を。つ。ぎ。へ。入。文。と。云。肥。前。守。人。切。腹。と
 城。と。明。後。と。や。べ。く。の。男。を。好。の。勢。味。の。者。共。一。命。と。助。死。に
 と。云。入。ら。れ。ば。佐。云。早。速。行。家。有。り。完。城。と。能。ひ。把。弟。守。切
 腹。及。及。り。た。そ。餘。城。中。の。男。女。患。命。の。助。を。死。者。と。云。せ。さ
 り。て。さ。り。と。冊。と。解。さ。ら。る。是。と。依。て。城。中。の。老。若。我。も。く
 と。立。退。小。勢。又。さ。り。武。田。家。を。屬。し。け。そ。外。勢。を。就

拵むる。清水も亦を委と據られて。城の要心。堅固を伴
得られり。是も今夜。繩を懸けし。城門の上。鎧を
あげざりし。初麻竹の門。矢防越中守より芳りて。眩病の
容も動りし。是を朝。傍觸るりのありて。例の落首を
らひて。武田玄彦介信実が。隙をよきとせり

とぞよみし。乃理し。名無べし。無屋の事とせし。名も
取とせ。我大節の場。又味まを。無理する。ももま
たも我も。當りて。大節の命。あも。初麻竹
なりし。年。難く。去く。虎。又。向ん。千。箱。の。響。の。龍。尾
の。あり。様。を。致。せ。ば。と。て。あ。ひ。て。ぞ。居。り。信。朝。後

集

論

元

子と。長坂。た。金。吾。入。及。市。伽。の。首。信。玄。へ。云。上。角。彼。落。首。な
ど。云。出。し。て。中。馬。の。一。丸。也。信。玄。笑。し。而。云。長。坂。旅。承。を
是。繩。が。後。病。と。い。は。れ。ば。彼。折。り。し。故。の。鉄。炮。烈。し。と
味。方。込。入。る。所。は。あ。ら。ね。ば。一。合。より。け。上。鎧。子。と。あ。げ。て
も。何。の。不。冷。う。あ。ら。ん。幕。虎。馬。河。の。影。さ。る。と。い。は。れ。と。そ。兵。守
而。朝。比。る。者。と。却。り。後。病。さ。ら。ら。ぬ。ま。小。あ。り。て。も。天。然
と。名。を。く。人。は。知。ま。り。大。刺。の。者。と。稱。せ。し。る。程。加。の
武士。と。い。は。れ。人。の。鬼。南。嶺。の。こと。彼。の。名。は。程。じ。も。ま。く
是。の。場。救。少。と。い。は。れ。云。觸。し。し。是。も。け。如。り。大。坂。の
者。の。各。列。し。る。所。と。い。は。れ。却。り。名。を。く。稱。せ。し。る。程。の。者
い。何。あ。ら。ん。猶。ま。り。る。の。あり。て。何。と。ま。り。も。庸。人。と。い。は。れ

全

ちり。覺の場殺すといふも。傷つる傷のあつても。三巴
交ひぬ者あり。まが守名名の強也。右後の巻の老が合戦
迫合の町よ。人並又働けが。早徳病と能らう。又主の老よ
て出陣する者ぞ。平せぬ者ぞ。合戦の迫合の所よ
こそ。その出陣人の隊と押んとあひ。そ出陣人ぞ。人並小東の
とれが。是亦徳病とあつると云解るが。群少の老が
人とあつる者。いふとよしく。心なげぬる。己は彼を
が如く。並の老が。戦門の強とあげぬと。能考のあは
依和伝云い。傍とよき者や。守名の者の能。よりく
別物とあつると云これけき。約守守口とぞ退る。この
繩を理にかき約とあひ。元末 東國の宰人と。大刻の者

浪

織田

左伝云召抱られて。又味与三之湯 飯尾孫四右衛門と作。徳
宰人。百十人組の頭とせられらる。所々の合戦又殺す武功
と作して。世又守名と稱せらる者なれども。至理の
つる名の。あつたてゑで。初麻。依傍の支士。然とめど
あり。初麻。依傍の支士。然とめど。二月中旬まで。逗留有なれども
その武威又恐怖と。進手出とよき者ぞ。進て水条方
ハ鬼神の如怖と。小内系とせられざる要心なると。遠く
けるけと。後尾一玉自然と。武田の有と成る。高下尾
の小島上総介より。依和伝左衛門と使者と。け交の傍刺と
外又得々。千吉物と。唐以二十。毛纏三百。投と。足利靈

ヤ

織田

織田

陽院殿と供奉柳上洛と遂に内府着用する所の吉倒の
 笠より人の進上仕儀の口牒す。殊に恭賀されぬ
 佐云悦森の侍も。別使者控を後方の所奉りて宛居上
 屋平八良と召す。你中多上総介が武威はあやうじと有る。其
 笠と結り。又唐紙の奥近寄の面に入。罷下すくどわされ
 代々指さるの光と着て。佐云の你意の程を聞く。子持
 ぶ所は。佐云を怒る。佐云怒て亦多家へ回報す。使者も
 原野芳雨ぞ改めしける。其後田中より内府へ移り。三月
 下旬中を滞り有て。後乃一四日控られ。於治玉安民の政と
 宛てて武威を擢す。旌旗と翻て。目出度甲府を凱陣とす。

繪本烈戦功記後編卷之五畢

池清

三

